

平成 24 年度第 3 回陸上掘削部会執行部会

日時:2013 年 3 月 18 日(月)13:30~17:00

場所:JAMSTEC 東京事務所 共用会議室

出席者(敬称略):

執行部:井龍康文(部会長/東北大学)、廣野哲朗(部会長補佐/大阪大学)、浅沼 宏(東北大学)、
小村健太郎(防災科学技術研究所)、公文富士夫(信州大学)、小泉尚嗣(産業技術総合研究所)、
須藤 斎(名古屋大学)、MORI, James Jiro(SAG 委員/京都大学防災研究所)

オブザーバー:嶋崎賢太(MEXT)、伊藤久男(海洋研究開発機構)

ICDPEC 委員:倉本真一(海洋研究開発機構)

事務局:梅津慶太(海洋研究開発機構)

欠席者(敬称略):

中田節也(東京大学地震研究所)、長沼 毅(広島大学)、藤原 治(産業技術総合研究所)

議事次第

1. 前回(121102)議事録確認資料 1
2. 来年度総会関連
 - ・2012 年度活動報告と 2013 年度活動方針.....資料 2
 - ・陸上掘削部会役員と執行体制.....資料 3
 - ・2013 年度予算資料 4, 5
3. ICDP Science Conference 2013 (11/11-14)@ポツダム
4. ICDP プロポーザルの状況(適宜)
 - ・JBBPWS
5. ICDP 以外の掘削関連プロジェクト
 - ・ANDRILL
6. JpGU 地球掘削科学セッションとタウンホールミーティング
7. その他

配布資料

- 資料 1 前回(121102)執行部会議事録
- 資料 2 2012 年度活動方針
- 資料 3 来年度陸上掘削部会体制
- 資料 4 現在までの 2012 年度予算執行状況
- 資料 5 来年度予算案

議事録

はじめに、井龍部会長より、新執行部メンバーが紹介され、自己紹介がなされた。

- ・今回より執行部に浅沼氏と須藤氏の2名に加わっていただくことになった。

1. 前回(121102)議事録確認資料 1

会議中も含め2~3日中に事務局に修正・コメント等をメールにて送ることとする。

2. 来年度総会関連

・2012年度活動報告と2013年度活動方針.....資料 2

資料2に基づき、総会(5/18(土)を予定)で報告を行う2012年度の活動の振り返りがなされ、それに基づき、来年度の活動方針の検討がなされた。

- ・年度当初計画した活動方針のおおよそは達成することができた。
- ・今年度の活動方針を踏襲する形で、来年度の活動方針を立てる。

以下、コメント及び情報等。

- ・ Alpine fault 関係で、PIは日本とより強い関わりを持つことを望んでいるようで、ワークショップなどを開催しても良いという話を聞いている。
- ・ GONAF はデータの品質チェックのために人を送れば良いと考えており、そのために支援があるとありがたい。
- ・ コアスクールは3回目を実施予定(3/25~27)であり、来年度についても産総研で実施することが可能。
- ・ ICDP 国際ワークショップについては、オマーンの陸上掘削のワークショップに対して1名を派遣した。来年度も継続的に支援を行っていく。
- ・ 今年の5月にユタ州パーク・シティで断層、火山、テクトニクスに関わる NSF のワークショップ (Post-SAFOD) が予定されている。
- ・ 海外 ICDP プロポーザルへの参加については来年度も引き続き支援していく。
- ・ 陸上掘削ワークショップの開催については、2/23 に実施することができた。来年度についても ICDP Science Conference に向けて何らかの集会を開催することを目標としたい。
- ・ ICDP 以外の国際共同研究計画については、ANDRILL に関して大きな進展があった。来年度も支援を継続する。
- ・ 陸上掘削広報物の配布については、地学雑誌の特集号を作成した。これを100部ほど購入する。普及冊子については来年度の作成を目標とする。
- ・ 現在、IODP 部会が中心となって月刊地球に特集号を作成中であり、陸上掘削部会としても原稿が求められている。

実行項目(130318-01):パーク・シティで開催される NSF ワークショップへ若干名を派遣する。そのため、**〆切を3/31としてJ-DESCのウェブページで旅費支援の申請を受け付ける。**

実行項目(130318-02):来年度活動方針については、今年度の活動方針をもとに井龍部会長と廣野部会長補佐で原案を作成し、4月上旬にメールにて執行部全体で議論を行う。

合意項目(130318-03):月刊地球の特集号に協力し、地学雑誌特集号を網羅した原稿を掲載することとする。原稿の準備は井龍部会長と廣野部会長補佐が行う。

実行項目 (130318-04) : Alpine fault プロジェクトでこれから日本人研究者がどのように連携していけるかを PI と相談し、それに必要な支援を検討する(実行者: 廣野部会長補佐).

- ・陸上掘削部会役員と執行体制.....資料 3
 - ・ J-DESC 会長の任期満了に伴い, IODP 部会の川幡部会長と井龍部会長の間で次期会長の選出を進めている.
 - ・ 陸上掘削部会幹事は, 5 名中 4 名が任期満了となる.

合意項目 (130318-05) : 陸上掘削部会幹事については, 事務局と部会長にて相談し, 適宜手続きを進める.

- ・2013 年度予算資料 4, 5

資料 4 及び 5 に基づき, 来年度予算の検討がなされた.

- ・ 広報活動費は地学雑誌買い取り分を計上する.
- ・ シンポジウム開催費は IODP 部会とは別立てに予算を立て, ICDP Science Conference2013 に向けたワークショップの開催費を計上する.
- ・ ICDP プロポーザル作成支援費は英文校閲代などにも利用可能であり, 昨年度と同様に計上.

3. ICDP Science Conference 2013 (11/11-14)@ポツダム

倉本 EC 委員より説明がなされた.

- ・ Steering Committee がなく, GFZ の Brian Horsfield がオーガナイズしている.
- ・ セッションは Scientific needs と Societal needs のマトリックスによって決められ, これに基づき, 各国の EC 委員に対して推薦するように依頼があった(このような取り決め方法については誰にも意見が求められていないようである).
- ・ 陸上掘削部会執行部から挙げられた日本人研究者は Mori 委員を通じて推薦した.
- ・ 現在日本から Invite されているのはどちらかという役職として選出された人物ばかりで, 若手研究者は全く入っていない.
- ・ そもそも参加は Invite only となっており, オープンではないことがウェブページから読み取れる.
- ・ 日本としては, 次の ICDP の重要なテーマとして地震・津波, 地熱は必須であることを提案したが, 現時点ではほとんど考慮されていないようである.
- ・ 日本から追加で数名を推薦するよう連絡があった.

合意事項 (130318-06) : 日本から改めて各テーマ 3 名程度を倉本 EC 委員, Mori SAG 委員を通じて推薦する.
また, このカンファレンスをオープンにするように提案する.

4. ICDP プロポーザルの状況 (適宜)

・JBBP

浅沼委員より報告がなされた.

- ・ ワークショップでは JBBP の科学コンセプトをより具体的にするために検討を行い, 実施までのロードマップを作成した.
- ・ 今後レポートを作成する予定であり, パンフレット等の作成も検討している.

・GONAF

伊藤氏より報告がなされた。

- ・掘削の後、観測装置の設置が完了した。

・COREF

井龍部会長より報告がなされた。

- ・科研費が通ればすぐに掘削を開始できる状況である。

5. ICDP 以外の掘削関連プロジェクト

・ANDRILL

須藤委員より ANDRILL について説明がなされた。

- ・ ANDRILL は北極の棚氷の上から海底を掘削し、その地点での氷床発達史を研究するプロジェクトである。
- ・ 日本は ANDRILL のメンバーには入っていない。
- ・ メンバーでなければサンプルを手に入れることはできない。

実行項目 (130318-07):今年度分の予算で ANDRILL の日本語紹介ポスターを印刷し(1種類 100部, A3サイズ), 地学雑誌特集号に差し込んで配布する(実行者:事務局)。

実行項目 (130318-08):ANDRILL に関して、現在日本が参加していない経緯について極地研に確認を行う(実行者:井龍部会長)。

6. JpGU 地球掘削科学セッションとタウンホールミーティング

- ・ 地球掘削科学セッションは最終日(5/24)の朝から開催される。会場の定員は160名。
- ・ 今年の投稿数は38件。
- ・ タウンホールミーティングは5/21(火)に一昨年と同じ会場で開催予定。

実行項目 (130318-09):ICDP の紹介ポスターと ANDRILL の日本語ポスターを印刷し、セッション会場に掲示する。

7. その他

前回会議議事録に書かれている実行項目が確認され、実行されていない項目については改めてこれから実施することとなった。

以上